

シェーラ×クルス

GRIFIS > ノ
kazuha > のー
kazuha > さて、と
GRIFIS > どういう所で会いましょうかw
kazuha > では、道案内→体躯倉庫→押し倒し、かな？（待て。
misuta > 押し倒されじゃないの？（w
GRIFIS > んー
GRIFIS > 案内して貰ってる最中に
GRIFIS > 貧血おこす？w
kazuha > おおう、
kazuha > 其れも可w
GRIFIS > むしろそのほうがやりやすい！w
kazuha > つい。
kazuha > というわけでじゃあ、歩いててもらおうかなw
GRIFIS > あいw

GRIFIS > 【シェーラ】「...へえ...見れば見るほど...面白そうな所ねえ...。」

GRIFIS > とある昼下がり。

GRIFIS > 園内を闊歩するシェーラ。

GRIFIS > 旅慣れてはいるものの、《学園》という空気はやはり特殊で...

kazuha > 【クルス】「.....」ちょっと目を凝らすと、ぶんぶん、っと小さな体で、巨大な剣を振り回している少年。

GRIFIS > 【シェーラ】「...ふうん...。」なんとなく興味を示し、少年に近付いて。

GRIFIS > しげしげと、その様子を眺めて。

kazuha > 【クルス】「.....せっ、ふっ、ほっ！」小さな体で、両手の巨大な鉄塊を、振り回す、黄金色の髪と、蒼い瞳、よく見れば、外見は悪くない。

GRIFIS > 【シェーラ】「(...けっこーいいカンジ?)」

kazuha > 汗に濡れた顔は、なかなか、そそる。

GRIFIS > 【シェーラ】「(...へえ...いただきちゃおっか、な♪)」

kazuha > 【クルス】「はあっ！」最後に袈裟懸けに一閃し「.....ふう」深呼吸、すると、真剣な顔が消え、一気に可愛くなる。

GRIFIS > わざと視界の片隅にはいるようにしゃがんで。

GRIFIS > 膝丈のスカートはその膝で持ち上げられて...

kazuha > 【クルス】「.....ええと、はじめましてですか？」

GRIFIS > 【シェーラ】「(やあん、可愛いじゃない...)」

kazuha > 視線が向いて、にっこりと、女殺しの笑みを

GRIFIS > 【シェーラ】「...あ、あら、邪魔しちゃった...かしら？」

GRIFIS > 微笑みに、こちらも幾多の男性を虜にしてきた笑みを返して。

kazuha > 【クルス】「あ、いえ、丁度終わったところなんで」さわやかに返し

GRIFIS > 【シェーラ】「...あら...ちょうどよかったわ？もしよろしければ...学園内、ご案内いただけないかしら？」

kazuha > 【クルス】「あ、ええと、僕でよければ、良いですけど.....と、女性に失礼しました、名乗るのが遅れました、あうう」そんなことで落ち込んだり

kazuha > 【クルス】「ともあれ、クルスヴァンド＝スルツカヤ、と言います」汗汗、っと申し訳ないぐらいのお辞儀をして

GRIFIS > 【シェーラ】「あら、礼儀正しいのね？可愛いボーヤなこと...。私はシェーラ。シェーラ・

カルシェよ。」

GRIFIS > お辞儀をしている間につつと身体を寄せて、深い切り込みの入った服の胸元を見せつけるように強調して。

kazuha > 【クルス】「シェーラさんですね、よろしくお願いしますっ」多少真っ赤になりつつ、お辞儀

GRIFIS > 【シェーラ】「あんまり、堅苦しいのは苦手なの…。楽しく、いきましょ？」さらに身体を寄せ、腕を組むように取って。

kazuha > 【クルス】「あ、はい、でででも、女性には軽々しくですね、騎士としてっ」でもずるずる、と引きずられて

GRIFIS > 【シェーラ】「あら、頼もしい…何かありましたら、お守り下さいませ、ね？」下から悪戯っぽい笑みを浮かべて覗き込んで。

kazuha > 【クルス】「ええ」にっこり、とそのあたりになると笑みで。

kazuha > 頼られると、ちょっと弱いらしく、胸を張って、そこは子供らしいともいえる。

GRIFIS > 【シェーラ】「えっと…じゃあ…まずは図書館と温泉って行ってみたいんだけど…いいかしら？」

kazuha > 【クルス】「あ、はい、ここだと、ええと、こっちですね……図書館からで良いですか？」

GRIFIS > 【シェーラ】「ええ、近い方からいきましょ？」きゅ、と胸を押しつけるように腕を抱え込み。

kazuha > 【クルス】「あ、はい、では、いきましょ」にっこり、と笑い、多少、赤くなりつつ。

GRIFIS > 【シェーラ】「あら…ご迷惑、だったかしら？」整えられた眉を困ったようにゆがめて。

kazuha > 【クルス】「そんな事は無いです、はい」あうあう、と言いつつ。

GRIFIS > 【シェーラ】「…それとも…嬉しいの、かしら？」ふふっと笑いを零し。

kazuha > 【クルス】「う、うれしいというかやわらかいというか、あたってますよというかー！？」あうあうあ、と可愛く困る

GRIFIS > 【シェーラ】「…当ててるもの？」しれっと言いはなって。

kazuha > 【クルス】「はうううっ！？」びくーん

kazuha > もう可愛そうなぐらい真っ赤に。

GRIFIS > 【シェーラ】「うふふ…じゃ、このくらいの方がいいかしら？」抱えた手を解放して、手を繋ぐぐらいの距離に離れて。

kazuha > 【クルス】「よ、よろしくお願いします」あうあう、と言いつつ、まあ、多少名残惜しいのは、秘密ということに

GRIFIS > 【シェーラ】「くすす…。じゃ、行きましょ？」

kazuha > 【クルス】「は、はひ」ゆっくり案内。

GRIFIS > 【シェーラ】「(うふふ…初めて、かしらん♪)」目がキラリ。

kazuha > 【クルス】「……えっと、ここですね」図書館の、前まで来て。

GRIFIS > 【シェーラ】「ふうん…ここだと…」何か手帳にメモして。

kazuha > 【クルス】「……次は温泉、でしたっけ？」

kazuha > くき、と

GRIFIS > 【シェーラ】「ん。お願いできるかしら？」

kazuha > 【クルス】「はいっ」にば、っと

GRIFIS > 【シェーラ】「……そのまえに、ちょっとだけいいかしら？」ちょいちょい、と手招いて。

kazuha > 【クルス】「あ、はい？」とてとて、と
 GRIFIS > 【シェーラ】(ちょいちょい)頭を下げるように手招いて。
 kazuha > 【クルス】「.....？」頭を下げて
 GRIFIS > 【シェーラ】「つかまえた♪」首根っこを抱え込んで、その顔を胸に埋めさせてみたり。

kazuha > 【クルス】「.....わぷっ！？」
 GRIFIS > 【シェーラ】「ん~♪」(すりすりと頬ずり
 kazuha > 【クルス】「...会う会うあうあうあうあうあうはうー！？」
 GRIFIS > 【シェーラ】「ん、ありがと♪」あっさりと解放して。
 kazuha > 抵抗もろくにできずに
 kazuha > 【クルス】「.....は、はう」くたん
 GRIFIS > 【シェーラ】「あら？大丈夫？」くたりのしたクルスに手を差し伸べて。
 kazuha > 【クルス】「.....う、え、ええと？」ちょっととっぴ過ぎて免疫が無いのか
 GRIFIS > 【シェーラ】「ゴメンなさいね？あんまりにも可愛かったもんだからつい...。」
 kazuha > 【クルス】「.....はうう」真っ赤になりつつ
 GRIFIS > 【シェーラ】「じゃ、行きましょ？」手を引いて。
 kazuha > 【クルス】「.....あ、はい」気を取り直して
 GRIFIS > 【シェーラ】「どっちにいけばいいのかしら？」きょろきょろと。
 kazuha > 【クルス】「.....えと、ここからだ、と」
 kazuha > 一方向を指差して
 GRIFIS > 【シェーラ】「...こっちね？」クルスの手を引いて歩き出して。
 kazuha > 【クルス】「.....あうあう」引っ張られて
 GRIFIS > 【シェーラ】「ほら、早く♪」
 kazuha > 【クルス】「.....はうー」ずるずるずるー
 GRIFIS > 【シェーラ】「もう...騎士さまがそんなのでいいのかなぁ~？」
 kazuha > 【クルス】「.....はうっ！？」
 GRIFIS > 【シェーラ】「ほーら、女性のエスコートは騎士様のお仕事でしょ？」くすくす、と笑って。
 kazuha > 【クルス】「.....は、はいっ」びしっ
 GRIFIS > 再び腕を抱え込むように胸を押しつけて。
 GRIFIS > 【シェーラ】「行きましょ？」耳元に囁き。
 kazuha > 【クルス】「.....了解、です」びし、と気を引き締め
 GRIFIS > 傍目からはカップルのようにも見えなくはなく？(笑)
 GRIFIS > 【シェーラ】「...あっ...」腕を抱え込んだ手の力が緩み、ふらりと身体が揺れて。
 kazuha > 【クルス】「.....とっ」案外に強い力で、ぎゅ、と支えて。
 GRIFIS > ふらついた身体を支えられた拍子に、背を逸らす格好になり。
 GRIFIS > 大きく開いた胸元を、更に見せつけるような姿になって。
 kazuha > 【クルス】「.....だ、大丈夫、ですか？」どきまぎしつつ。
 GRIFIS > 【シェーラ】「ああ...ごめんなさい...少し、気分が...」
 kazuha > 【クルス】「.....保健室、行きましょか？」
 GRIFIS > 【シェーラ】「少し、休ませて貰えれば、平気だから...」
 GRIFIS > 【シェーラ】「木陰にでも...」
 kazuha > 【クルス】「...ここから一番近いのは、と」ぎゅ、と、何気にお姫様だっこで、そっちに、連れて行く。

GRIFIS > 膝丈のスカートが、横抱きに抱え上げられるとめくれそうになって。

kazuha > 【クルス】「.....大丈夫ですか？」膝枕、で頭をなでて

GRIFIS > 【シェーラ】「もう少し、奥で...いい、かしら...ここでは...」途次からの視線を気にするように。

kazuha > 【クルス】「.....あ、はい」ぎゅ、と持ち上げて、そのまま、もう少し奥に。

GRIFIS > 【シェーラ】「(んふふ、この辺なら大丈夫かしら?)」おめめキラリw

GRIFIS > クルスの膝に頭を預けた姿で。

kazuha > 【クルス】「.....大丈夫ですか？」のぞきこみ。

GRIFIS > 【シェーラ】「...あの...さすって、いただけない、かしら...？」胸元を示して。

kazuha > 【クルス】「...はうっ、えと、はい、ここ、ですか？」お腹をなでなで

GRIFIS > 【シェーラ】「もっと、上...。」

kazuha > 【クルス】「.....う、あ、ええ、っと」だんだんと、がんばってうえに上げていく。

GRIFIS > 【シェーラ】「そうじゃなくて...このへん...」じりじりと上がってくる手を取って、柔らかな双丘の上に乗せて。

kazuha > 【クルス】「.....はうあっ!？」びくん。

kazuha > ぎゅ、と胸を握ってしまい。

GRIFIS > 【シェーラ】「ひゃん♪」

kazuha > 【クルス】「.....あう、あ、ご、ごめんなさいごめんなさいっ!？」でも手は反射的に揉んでしまい。

GRIFIS > 【シェーラ】「ん...きもちいい...もっと...ね？」

kazuha > 【クルス】「.....う、え？」びくん、とするが、手は、止まらない。

GRIFIS > 手を伸ばし、クルスの首筋から頬を撫でて。

GRIFIS > 【シェーラ】「...服の上からより...ね？」

GRIFIS > 自ら、覆っていた布をめくるように。

kazuha > 【クルス】「はう、っと.....うわ、やわらか、い」熱に浮かされたかの、ように胸に触れ。

GRIFIS > 【シェーラ】「あう...う...ん...」ぴくぴくと、刺激に反応を返して。

kazuha > ぐに、と手が反射的に揉んでしまい、テクニックもないが、手が、暖かい。

GRIFIS > 【シェーラ】「あ...おとこのひとの、手...」胸を揉む手に、自らも手を重ねて。

kazuha > 【クルス】「.....手、とまらない、きもち、いい」ぐにぐに、と強めていき、ぐにぐに、と揉んで。

GRIFIS > 片方の手を、するすると下に誘導して。

kazuha > (ぐにぐに二階言うな俺(汗。)

GRIFIS > 自らのスカートの下に潜らせて。

kazuha > 【クルス】「.....あ、え、ちょ、シェーラ、さん？」手が、なすがままに

GRIFIS > 【シェーラ】「...こんなことする女は、イヤ？」熱を帯びた瞳で見上げて。

kazuha > 【クルス】「.....いやといふかなんといふかええと僕は初めてでそれにシェーラさんとあったばかりですしっ」あたふた。

GRIFIS > 【シェーラ】「...初めてなんだ...」くすり、と笑みがこぼれて。

kazuha > 【クルス】「あう、はい」しょんぼりんぐ。

GRIFIS > 【シェーラ】「じゃあ...わたしから、お願い...。あなたの初めて、わたしに...ちょうだい？」

kazuha > 【クルス】「え、ええと、あ、え、ちょ？」汗汗
GRIFIS > 【シェーラ】「あなた見かけて...欲しく、なっちゃったの...。ダメ...かしら？」
kazuha > 【クルス】「ぼ、僕で、よければ」
kazuha > 誘惑に、負けて、しまった。
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...よかった。」初めて見せる、花のような笑顔。
GRIFIS > 【シェーラ】「じゃあ、こっちも...ね？」
kazuha > 【クルス】「はうっ」その笑顔で、最後の線というかそーいうものが、切れて。
GRIFIS > スカートに潜らせた手を、既に湿り気を帯びた秘裂に這わせて。
GRIFIS > #履いてません(笑)
kazuha > 【クルス】「ん、あうっ」ぐにぐに、と胸を揉みながら、反射で、そこもくちゅくちゅ、と撫で回して
GRIFIS > 【シェーラ】「んく、あ、あぁっ！」艶のある嬌声で、拙い愛撫に応えて。
kazuha > 【クルス】「あ、尖ってる.....これ？」ぐに、と乳首を指でくりくり、といぢって
GRIFIS > 【シェーラ】「あん...そこは、もう少し、優しくぅ...」
GRIFIS > 膝の上でいやいやをするように振った首が、クルスの股間にも刺激を与えて。

GRIFIS > #おっきくなってますか？w
kazuha > #わかさゆえに。

kazuha > 【クルス】「はうっ」びくん、と大きく震えて
GRIFIS > 【シェーラ】「...あ...ここ...おっきい...」
GRIFIS > 頬ずりするようにそこに顔をすり寄せて。
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...ねえ...クルスくん...」
kazuha > 【クルス】「は、はい？」愛撫をしながら
GRIFIS > 【シェーラ】「どーして、欲しい？」悪戯っぽい笑みで。
GRIFIS > 【シェーラ】「言ってくれないと、好き勝手にしちゃおっかな？」
kazuha > 【クルス】「あ、あう、ええと、よく、わからない、ですけど」あうあう、と
GRIFIS > 【シェーラ】「お口でちゅぱちゅぱとか、手ですりすり~、とか♪」
kazuha > 【クルス】「ええと、あう、じゃあ、その、胸で」おずおず、と
GRIFIS > 【シェーラ】「へえ...そういうの、興味有ったんだ...くるすくんのえっちー。」
kazuha > 【クルス】「と、ともだちがっ.....あう」真っ赤に
GRIFIS > 身体を起こして、改めてクルスに向き直って。
GRIFIS > 【シェーラ】「...楽に、しててね？」
GRIFIS > 手慣れた様子でクルスのベルトを外し、前を開け放って。
kazuha > 【クルス】「あ、はい」力を抜いて
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...立派...♪」飛び出してきた屹立に目を輝かせ。
kazuha > 【クルス】「はうっ」
GRIFIS > 【シェーラ】「あん...この匂い...たまんない...。」大好物に飛びかかるように躊躇せずに口に含み。
kazuha > 【クルス】「うあ、な、何、これ、うあ」びくん、と口の中で振るえ
GRIFIS > 口の中で、くるくると舌を這い回し、その表面に十分なぬめりを与えて。
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...きもひ、ひー？」口の中に悶えたまま声をかけて。
kazuha > 【クルス】「.....は、はひっ」こくこく
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...」ちゅぽん、と音を立てて抜いて。
GRIFIS > 【シェーラ】「じゃ、クルスくんお待ちかねの...」更に、唾液を垂らして。

kazuha > 【クルス】「う、あ」外見の割には、そそり立った、それが
GRIFIS > ゆっくりと、焦らすように胸を押しつけて。
kazuha > 【クルス】「はうっあっ、ぐっ」やわらかい、それでいて、最上級の刺激が、なれないそれを襲い.....熱さを増して。
GRIFIS > 豊満ながらも、崩れる様子もない二つの丘で、そそり立ったモノを挟み込んで。
GRIFIS > ふにふにと、両側から更に手でこねるように刺激をくわえて。
kazuha > 【クルス】「すご、おっぱい、きもち、いいっ」限界まで張り詰めたそれが、先走りを垂らして「あ、う、もう、出ちゃった.....？」ぬるぬる、と胸を汚して
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...クルスくん...ほんと、可愛い...」豊かな柔肉から頭を出したそれから漏れる液体を舐め取って。
kazuha > 【クルス】「ひうっ!？」びく、と振るえ「ば、もう限界.....あ、何か」
GRIFIS > 【シェーラ】これは、先走りって言って...男の子が気持ちいいときに、イク前に漏らしちゃうお汁よ？」
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...いいわよ、お口で受けてあげる...」胸で捏ねながら、先端を悶えるように口に含み、さらに口内で舐め回して。
kazuha > 【クルス】「うあっ、ぐあっ、うあっ、ああああっ!？」どぶ、と濃厚な、熟成に熟成を重ねたワインのように.....濃密な匂いがする、白濁が、放たれて。
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...ふぁうっ!」吐き出された白濁を、全て口で受け止めて。
GRIFIS > 【シェーラ】「ん...」ちゅう、とその尿道に残ったモノまだ吸い出して。
kazuha > 【クルス】「あ、あ、あう」びくびく、と会館で顔が蕩けてしまい。
GRIFIS > 【シェーラ】「...ん...」クルスの股間から離れ、眼前で顔を見合わせて。
GRIFIS > 【シェーラ】「...んふ...」その目前で、喉を鳴らすように飲み下し。
kazuha > 【クルス】「はう」その光景に、むく、と復活していく、それ。
GRIFIS > 【シェーラ】「どーだった？」唇を淫靡にてからせたまま、にっこりと問いかけて。
kazuha > 【クルス】「きもち、よかったです」
GRIFIS > 【シェーラ】「んふ...じゃあ.....」す、と立ち上がって。
kazuha > 【クルス】「は、う？」
GRIFIS > 【シェーラ】「ここ、入れたら...どうなっちゃうのかなぁ...」スカートをたくし上げ、濡れた秘裂を目前に見せつけるように自ら開いて。
kazuha > 【クルス】「あ.....」初めてみるそれが、いやらしく、でも綺麗で。
GRIFIS > 【シェーラ】「んふふ...脱いじゃお...」目前で腰をくねらし、見せつけるようにスカートを下ろして。
GRIFIS > 【シェーラ】「君の舐めてたら、ガマン出来なくなっちゃった...もう、入れちゃっていいかしら...？」
kazuha > 【クルス】「え、あ、うあ.....ん」じーっと無遠慮で、無垢で、それでいて、欲にまみれた視線を注ぎながら.....うなづく。
GRIFIS > 【シェーラ】「ん...じゃあ...。そのまま、じっと...しててね？」ゆっくりと、クルスの上に腰を下ろすように、
GRIFIS > そそり立つソレの上に淫らに濡れた花卉を迫らせて。
kazuha > 【クルス】「は、はい」動かないで、そのまま
GRIFIS > 【シェーラ】「ガマンしないで、膣内で...いいから...ね？」
GRIFIS > 熱い固まりを、自らの秘裂に押しつけて。目で、クルスに合図を送り、
kazuha > 【クルス】「はいっ」ぎゅ、と腰をかかえ、ずん、と腰を突き上げ。
GRIFIS > 【シェーラ】「はぁんっっ!」割って入る感触に、身体を震わせて。

GRIFIS > そのまま、すとな、と腰を落とし、根本まで受け入れて。

kazuha > 【クルス】「ぐ、あ、何、これ？」中でびくん、と震える、一回出してなかったらすぐ出てしまうだろうというぐらいの中。

GRIFIS > 【シェーラ】「あは...はいっちゃった、よ？...わたしの膣内、どう、かしら？」腰を動かすことなく、中の柔肉を蠢かせて。

GRIFIS > 膣内のヒダがクルスの分身をくまなく撫で上げ、締め付ける。

kazuha > 【クルス】「きもち、よすぎ、て」ぎゅうぎゅう、と締まる中で、なおも、腰がびくびく、と振るえ、膨張が最大になっていく。

GRIFIS > 【シェーラ】「あら...可愛い表情...じゃあ、こんなこと、しちゃおうかしら...」腰を揺すり、更に刺激を強めて。

GRIFIS > 円を描くように、可と思えば左右に、前後に...不規則なリズムで、肉の杭を責めあげて。

kazuha > 【クルス】「あ、ぐ、あっ、うあっ」腰が、それを助長するように、自分の意思と反して突き上げてしまい。

GRIFIS > 【シェーラ】「ほら、ガマンしなくていいのよ...？」自らも、その刺激に酔ったように。

GRIFIS > クルスの頭を、胸で挟み込むように抱えて。

kazuha > 【クルス】「う、あああっ」吹っ切ったかのように、激しく腰を振りながら、手は腰をつかんで

kazuha > 鍛えた腰が、はねて。

GRIFIS > 【シェーラ】「あっ、く、あ...イイ、イイわっ！」

GRIFIS > 暴れ回るソレを押さえ込もうとするかのように締め上げて。

kazuha > 【クルス】「.....っ、ぐっ、はうっ、くっ」腰をつかみ、乱暴ともいえる、力だけの、動き、ずんずん、とむさぼるように。

GRIFIS > 【シェーラ】「ん、くう、ああっ！」突き上げるだけの動きを、自ら腰を捻り、揺らして、様々な刺激に変えて。

kazuha > 【クルス】「う、あ、おかしく、なりそ、で、そ」びくん、と奥にぶつけるように、腰を動かし、単調な動きでも、強さだけは、とても強く、胸に埋もれた顔は、乳首を吸い上げて。

GRIFIS > 【シェーラ】「おかしくなっているのよ？わたしも...こんなに...」自ら快感を貪るように、腰を暴れさせて。

GRIFIS > 【シェーラ】「ほら...膣内に...出しちゃって、いいの...おっ！」

kazuha > 【クルス】「も、また、で、ちゃう」ずん、と突き上げ限界を迎えそうなそれに、最後の一押しが入り

kazuha > 【クルス】「うあっ！？」どぷ、と二度目でも十分濃い精液を、注いでいき。

GRIFIS > 【シェーラ】「んんっ！」一際強く締め付けて。

kazuha > 【クルス】「.....はあ、はあ.....う、あ」びくびく。

GRIFIS > 【シェーラ】「ふぁ、あう...」くったりと力が抜け、クルスにのしかかるように身体を預け。

kazuha > 【クルス】「.....気持ち、よかった、です」くてん、とそのまま。

GRIFIS > 【シェーラ】「...うふふ...ちょっと、刺激...強かった、かしら？」

kazuha > 【クルス】「.....くう」すやすや、と

GRIFIS > つるり、と抜き取って。

GRIFIS > 【シェーラ】「あら...ほんとに、可愛い子...」

kazuha > # このあたりかな。
GRIFIS > # ですな
kazuha > ふう、おつかれさまでしたー。
GRIFIS > # おつかれさまでしたー
GRIFIS > いかがでございましたでしょうか？ w
kazuha > えろえろでしたw

コメント